



おかむら みつやす
岡村 充泰 さん

京都で事務機を扱うウエダ本社の三男として生まれ、大学卒業後は繊維会社に勤め、起業も経験。家業の経営危機を受けて現社を継ぐ。経営改革で家業を復活させるとともに、今や働く人を重視した「働く環境の総合商社」として数々の事業を展開する。「京都流議定書」の提唱者として京都経済界の中でも存在感を増している。

人を生かしたオフィスづくりが、ビルづくりへ、さらに発展して街づくりへと繋がっていくと思います。



駆け出しの若いデザイナーが経済的にも空間的にも働きやすくシェアできるジムキノウエダ・ビルディング。数々のクリエイターたちがスキルアップし巣立っていく、インキュベーション施設だ。

デザイナーやカメラマンのあいだで五条通りにある「ジムキノウエダ・ビルディング」は知られる存在だ。もともと取り壊す予定だったビルを「住めるオフィス」に改築。次代を担う若いクリエイターたちが集う。

経営するのは京都で事務機を扱い80年の歴史を誇る「株式会社ウエダ本社」だ。15年前に岡村充泰社長が家業を継いだとき、経営状態は芳しくなかった。岡村さんは「業績不振は人の役に立っていないから」と分析。事務機を卸すだけでなく、数値化されない価値を提案するオフィスとは何かを、考え抜いた。たとえば子育て中の女性が多いオフィスと、外出が頻繁な営業マンのオフィス。それぞれの働き方に応じて、空間の使い道や効率的な机の配置は異なる。

「働く環境」の総合商社

緑の下の カモチ

「オフィスのかたち」から人の成長、出会いも生み出す

「私は人の多様性を尊重したい。画一的な社会よりも、いろんな人がいるほうが楽しいでしょう？ 働き方に定形はありません。さまざまな人が輝く社会をオフィスで創り出したい。」

そんな岡村さんの思いは、一社一社異なる、働く人を主役にしたオフィスづくりに結実した。

今、岡村さんが創出したいのは、人と人が繋がる機会だ。その挑戦のひとつが、冒頭のジムキノウエダ・ビルディング。入居が縁で生まれるコラボレーションや、ここで成長して東京へ巣立つクリエイターも少なくない。

オフィスづくりを起点に、そこで働く人やオフィスが集まる街に京都へと岡村さんの視野は広がる。岡村さんはこれからも、京都の新しい価値観を生み出す「京都流」を提唱していく。

私もカモチです

環境を整えることを考え抜き、そこで働く人たちが輝く場を創出する岡村社長(株式会社ウエダ本社)と同様、三洋化成工業も、暮らしや産業の様々な分野を支えています。



三洋化成工業株式会社

京都市東山区一橋野本町11-1

最寄りバス停は「泉涌寺通」



ハシアイ500m



「はたらき」を化学する。

"Performance" Through Chemistry